



### (1) Kyushu University VISION 2030

九州大学が目指す「総合知で社会変革を牽引する大学」を実現するために策定したビジョン。指定国立大学法人の指定申請を契機に、九州大学の未来を担う若い教職員を含めた全学的な議論を重ねて得た今後10年間の大学の方向性、方針を示したもので、「ガバナンス」「DX」「教育」「研究」「社会共創」「国際協働」「医療」「財務基盤」の8つのビジョンからなる。

### (2) 2つの基盤組織とプラットフォーム

「未来社会デザイン統括本部」は、九州大学の研究上の強みである「脱炭素」「医療・健康」「環境・食料」の3領域を中心に、多様化・複雑化する社会的課題の解決に貢献する役割を担う。「データ駆動イノベーション推進本部」は、データ活用により分野を超えた新たな価値を発見・創出する総合知のプラットフォームとして機能し、データ駆動型の教育、研究、医療の展開と、未来社会のあるべき姿をDXの視点から提案する役割を担う。

「オープンイノベーションプラットフォーム」では、将来の課題探求から研究成果による社会実装までの道筋を産学官民の連携によって検討し、共同研究や大学発ベンチャーの創出拡大につなげ、九州大学の研究成果を社会に還元する。

### (3) 海外の大学との取り組み

現在、人間環境学府と釜山大学校（韓国）との間で、博士課程のジョイント・ディグリープログラムの設置を文部科学省に申請しており、都市・建築分野において共同で人材育成を行うことを計画している。また、イスラエルのヘブライ大学エルサレム校（HUJ）の間では、オンラインで双方の学生を繋ぎ、双方方向型の授業を行う新しい国際教育手法（COIL型教育）により、社会環境や文化的背景の異なるイスラエルの同年代の学生と毎週顔を合わせディスカッションするなど、緊密な学びの場を提供した。



開発・運営、起業環境の整備、拠点都市のエコシステムの形成・発展など多岐にわたる活動を実施。九州・大学発ベンチャー振興会議との密な連携のもと、アントレプレナーシップ教育から起業支援までを一貫して実施していく予定です。

国際交流については、コロナ禍の状況が落ち着き、3年ぶりに対面で開催した海外留学フェア2023への参加者数は過去最高となり（延べ1008人）、日本人学生の海外留学への関心が高まっていることが窺えます。また、外国人留学生数も、2023年5月1日時点で2526人となり、コロナ禍以前である2019年5月1日

時点の2387人を上回っています。九州大学では、国際社会のリーダーとなる人材を輩出するため、海外で研究活動を経験する研究留学の促進や、ダブル・ディグリープログラム（19件）の実施のみならず、新たに海外の大学と共同で学位を授与するジョイント・ディグリープログラムの設置に向けて取り組んでいます。今後も海外協定大学との交換留学プログラム、国際コンソーシアムを通じた連携プログラムなどさまざまなネットワークを活用した多様な取り組みをさらに促進していく予定です。

分離膜で大気中からCO<sub>2</sub>を直接回収し、それを資源化することにより地球温暖化の主たる原因であるCO<sub>2</sub>の削減と炭素資源循環を実現する取り組みや、洋上風力発電をはじめとする風力エネルギー技術の革新を目指す研究開発などを実施しています。また、医療・健康の取り組みでは、カイコ活用によるワケチンの原料をはじめとする医療用タンパク質の生産などバイオリソース科学分野における最先端の研究を行う他、身体が持つ能力を拡張する細胞内サイバネティック・アバターを医師・専門家が遠隔操作することによって、体内をパトロールして、体をいつも良い状態に保ち、安全・安心な日常生活と健康寿命延伸の実現を目指す研究プロジェクトを実施しています。

国際競争力のある先端研究、価値創造人材の育成、産学連携プロジェクトの実施、産学連携プロジェクトの実施という点において、特徴ある取り組みとして注目されているのが「半導体」に関する研究開発です。九州大学では、国内外の大学や企業などと連携し、半導体の未来を切り拓く研究を共同で推進する予定です。特に、熊本大学と共同で熊本大学のキャンパス内に共同研究の新拠点を2025年春までに完成させ、九州から世界に発信する半導体研究を協力して実施する計画です。

また、2023年6月には、半導体分野の研究開発と社会実装の日蘭協力を目的として、オ

ランダから政府機関や半導体関連企業、研究機関など約30人で構成される半導体イノベーション使節団が九州大学を訪問。九州大学の施設見学とともに、半導体、光集積回路、量子コンピュータ、インテグレーションの3つのトピックに関する活発なグループディスカッションが行われました。

さらに、九州大学では2023年6月に価値創造型半導体人材育成センターを開設しました。このセンターでは、半導体のスペシャリストであると同時に、社会のニーズや社会変革に求められる半導体を理解し、半導体の設計・製造に反映し、新しい時代を切り拓く「価値創造型半導体スペシャリスト」を育成します。

「総合知」を生み出す九州大学で新たな学びを

九州大学は、新しい時代の困難な課題に取り組み、「総合知で社会変革を牽引する大学」として社会・経済システムの変革を先導することを目指しています。社会的課題を解決するためには、個人がさまざまな学問分野の知見を深めることはもちろん、多様なバックグラウンドを持つ人たちが協働し、課題解決に取り組むことが不可欠です。九州大学では、そうした人材を育成するための環境や、多彩な教育プログラムを用意しています。予測困難で不確定な時代だからこそ、未来を切り拓く「総合知」を生み出す九州大学での学びを目指してみませんか。

た「次世代研究者挑戦的研究プログラム」などを通じ、幅広いキャリアパス形成を意識した教育を展開しています。

九州大学



いしはら ともはる  
石橋達朗総長  
1975年九州大学医学部卒業。81年同大学大学院医学研究科卒業。九州大学大学院医学研究科眼科学分野教授、副学長、九州大学病院長などを経て2020年より現職。

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744 学務部入試課 TEL 092-802-2004 <https://www.kyushu-u.ac.jp/>

# 九州大学

## 指定国立大学法人として、世界最高水準の研究・教育活動を推進。「総合知」で社会変革を牽引する大学へ

1911年に帝国大学の一つとして創立し、112年に及ぶ歴史を誇る九州大学。国内最大級の規模を有する伊都キャンパスを中心に、約1万9000人の学生と教職員約8000人が在籍し、12学部19学府に大学病院などを擁するわが国屈指の基幹総合大学として発展を遂げています。教育面では、1年生全員が1年間、学部を超えて学び合う「基幹教育」などを通じ、学び続けることを幹に持つ、未知な問題や状況にも果敢に挑戦するスピリットと行動力を備えた「アクティブ・ラーナー」を育成。一方、研究面でもわが国を代表する指定国立大学法人として、「脱炭素」や「医療・健康」「環境・食料」など、世界が目指す最先端の研究活動を展開しています。

### Kyushu University VISION 2030を策定

九州大学は1911年の創立以来、多くの優れた研究成果や人材を社会に送り出してきました。国内最大規模を誇る伊都キャンパスは「総合科学の中枢・実証実験拠点」として機能し、最先端の研究・教育をはじめ、社会実装を見据えたさまざまな実証実験を展開しています。

2021年11月には、2030年に向けた大学の目指す姿として「総合知で社会変革を牽引する大学」を掲げ、その実現に向けたさまざまな取り組みを具体化する「Kyushu University VISION 2030」を策定。

「総合知で社会変革を牽引する大学」として、九州大学がこれまで蓄積してきた「知」と「人材」というアセットを最大限に活用し、地域社会と協働しつつ、社会的課題の解決や持続可能な人々の多様な幸せ（Well-being）を実現する社会づくりに貢献していきます。

ビジョン元年であった2022年4月には、目指す姿の実現に向けた

基盤組織として、「未来社会デザイン統括本部」と「データ駆動イノベーション推進本部」の二つの本部と「オープンイノベーションプラットフォーム」を立ち上げました。現在、これらの組織を中心に、九州大学が目指す姿の実現に向けた社会変革とイノベーションを促す活動が動き出しています。

さらに、2023年3月には、九州・沖縄地域の全11国立大学、沖縄科学技術大学院大学とそれぞれ協定を締結し、九州・沖縄地域の研究力向上をはじめ、地域が抱える社会的課題の解決や、研究成果の社会実装の拡大に向けた取り組みを開始しています。

### 「価値創造人材」育成のための先進的教育プログラム

九州大学では新たな社会をデザインする力と課題を解決する力を有し、グローバルに活躍できる「価値創造人材」育成のための教育プログラムに力を入れています。

価値創造人材の育成については、共創学部で国際的・地球的課題を解決できる人材を育成することをはじめ、2022年4月に開設したマス・フォア・イノベーション連係学府で「数学モデリング」をキーワードに数学とさまざまな分野を結びつける教育研究を行うほか、博士学生に対する経済的支援や創造的な研究・専門分野の枠を超えた融合的研究に専念・挑戦できる環境を整備し



こうした人材育成の更なる推進のため、今春、全学の教育の司令塔として「未来人材育成機構」を設置。学生の入学前から博士課程修了までを一貫する学びの過程と捉え、学部・修士課程教育の充実、優秀な高橋生を惹きつけるための戦略的な高次接続や入試改革の推進、企業等のニーズに対応できるリカレント（リスキリング）教育など多岐にわたる取り組みを広くカバーするとともに、それらを相互につないで全学の教育改革を推進します。

一方、アントレプレナーシップについては、オール九州・沖縄圏一体でアジアとつながるスタートアップ・エコシステムを創出することを目指し、九州大学と九州工業大学を主幹機関として、九州・沖縄の18大学と株式会社FEGベンチャービジネスパートナーズによりPlatform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (P